

◆ 4 番（森田卓司議員） 本日最後の質問者となります、新風会の森田卓司でございます。

まず、故安井聡議員の御功績をしのび、心より御冥福をお祈り申し上げます。

それでは、通告に従いまして質問に入ります。

まず、o n i ビジョンの受信料の統一についてお伺いいたします。

昨年6月の定例市議会個人質問で、私は次のような質問をいたしました。建部、瀬戸、それから御津地域で受信料が違います。もちろんチャンネル数も若干違うわけですが、o n i ビジョンの受信料金を高齢者、低所得者等への配慮で、金額の安い御津地域の料金体系に統一する要望をo n i ビジョンへ岡山市としてすべきだと思えるがいかがでしょうかと私は質問を行いました。企画局長の答弁は、現在の建部地区、瀬戸地区の料金体系についてでございますけれども、こちらにつきましては、視聴できるチャンネル数などを基本に、合併前に設定されたものとなっておりますけれども、高齢化率が高いなど御津地域と同様の地域性を有していることから、引き続き料金体系の均一化を働きかけてまいりたいと考えておりますとの答弁をいただいております。その後、高松・足守学区等へのo n i ビジョンの放送エリア拡大地域においても、御津地域と同様の料金設定で加入促進が図られていると聞いております。

そこでお尋ねいたします。

その後の同社との交渉状況と現在の状況をお示してください。

続きまして、安全・安心に元気で暮らせる長寿社会実現に向けてについてお尋ねいたします。

本年元旦の山陽新聞によると、2005年に出生数と死亡者数が逆転、2009年には出生数が前年比2万人減、死亡者数は統計資料を取り始めて以降最多であると報道されており、日本の人口減が加速されるとの報道がされておりました。

本市議会初日に高谷市長より、高齢者福祉について、高齢者の方々が住みなれた地域で安心して生活を送ることができるよう、高齢者を地域全体で支える体制を構築する等の提案説明がありました。人口減、高齢化が急速に進んでいる建部・御津地域等周辺地域にとりましては、大いに期待するものであります。

そこで、地域の中で高齢者の方々を積極的に支援されている団体等について何点かお尋ねいたします。

まず、民生委員、児童委員の配置人数について。

今さら申すまでもありませんが、民生委員、児童委員は、その市町村の区域内で担当の区域または事項を定めて行われ、その職務は住民の生活状態を必要に応じて適切に把握しておくこと、援助を必要とする者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるように、生活に関する相談に応じ、助言その他援助を行うこと、援助を必要とする者が福祉サービスを適切に利用するために、必要な情報の提供その他の援助を行うこと、社会福祉を目的とする事業を経営する者または社会福祉に関する活動を行う者と密接に連

携し、その事業または活動を支援すること、また福祉事務所その他の関係行政機関の業務に協力することと示されております。それ以外にも、本市の取り組みとして安全・安心ネットワークの活動に対して、また児童クラブの運営委員会の委員としてほか、活動の場は、そして責任の重要度は増大していると認識しています。本年 11 月 30 日に岡山市の民生委員、児童委員の任期が切れるため、一斉改選が行われます。12 月 1 日からは、新しい民生委員・児童委員の配置人数、新民生委員・児童委員の方々による活動が開始されます。

そこでお尋ねいたします。

(1) 政令指定都市移行により、民生委員・児童委員の配置人数に変更はありますか。また、民生委員・児童委員の人数が増員となった場合は、民生委員児童委員協議会に対する補助金を増額するべきだと思うが、御所見をお聞かせください。

(2) 区域または事項を担当する民生委員・児童委員配置基準だけによる配置人数ではなく、1人当たりが担当する面積、地域の状況等により配置人数を考えるべきではないかと考えますが、いかがでしょうか。

次に、愛育・栄養改善委員の活動についてお伺いいたします。

愛育のしおりによると、私たちの住んでいる地域には健康と福祉に関したいろいろな問題があります。それを自主的に取り上げ、問題解決のためにどうすればよいかを話し合い、手を携えてそれに取り組み、健康で豊かなまちづくりを目指している組織を地区愛育委員会といいます。そして、愛育委員会に属し、愛育活動をする人を愛育委員と呼びますと示されています。

次に、栄養改善協議会資料によると、恵まれた食環境にある今日でも、栄養に対する認識や正しい生活習慣の実践不足から、がん、心臓病、脳卒中など日常生活と関係の深い生活習慣病が急増している。私たちが目指しているものは、快適で豊かな活力ある長寿社会であり、そのため乳幼児期から高齢期までを通じた食事、運動、休養のバランスのとれた適切な生活習慣の定着と、たばこ、アルコール、歯の健康対策を取り入れた総合的な健康づくりの実践活動を推進すると示されています。他の地域でも愛育・栄養改善委員の方々、先ほど述べた活動方針に沿った活動をされていると認識をしていますが、旧建部地域では長年にわたり愛育・栄養委員の方々、またその他各種団体の方々を中心に、健康長寿のまちとしての取り組みを行ってきました。合併後の決算委員会で、多くの議員の方々から、建部地域の高齢者福祉を含む福祉事業にはぜひとも続けていくべきだとの議論もいただいたものです。

それまで建部町の長い間の政策により、平成 18 年度、これは合併年度になりますが、国民健康保険加入者の 1 人当たりの医療費は、老人分で旧岡山市が 92 万 6,495 円、旧建部町が 74 万 908 円、それから退職分の国保加入者で旧岡山市が 42 万 2,218 円、旧建部町が 38 万 2,114 円のとおり、老人分で国保加入者の 1 人当たりの医療費は、建部町が 18 万 5,587 円岡山市より少なく、退職分では 4 万 104 円岡山市より少なくなっています。その他の要因もあることも考えられますが、行政と愛育・栄養改善委員、各種団体の活動により、健

康長寿が保たれていると私は考えております。

そこでお尋ねいたします。

(1) 建部地域の高齢者の方々に対する福祉事業に対しての御所見をお示しく下さい。

(2) 区長を中心とした愛育・栄養改善委員会、また各種団体の活動は、中山間地域で人口減、高齢化が進む建部・御津地域で、地域コミュニティーの維持にも大きな役割を果たしていると私は感じていますが、当局の御所見をお示しく下さい。

(3) 毎年、委託料、補助金の減額が続いていますが、これは合併時の約束事なのでしょうか。

(4) 今後、岡山市を初め全国的に本格的な高齢化社会を迎えることになりましたが、建部地域をモデル地域として事業の継続はできないかお示しく下さい。

(5) 先ほどの高齢者の方の医療費を考えると、補助金、委託料を減額せず活動をしていただいたほうが、10年後、20年後を考えると財政的にもよい方向に向かうのではないかと考えますが、いかがでしょうか。御所見をお示しく下さい。

次に、新市基本計画の進捗状況についてお伺いいたします。

1月だったと思うんですけど、「検証合併3年」という山陽新聞の記事が載っております。その中に「温泉、高校跡活用足踏み」という大きな見出しが載っております。

それでは質問に入ります。

建部地域の市新市基本計画については、福渡高校の跡地の活用が最重要課題となっております。建部地域のみならず、高等学校の再編により廃校となる跡地の活用については、県内各自治体も他の自治体の動向に関心を持たれている現状であると想像いたします。昨年6月定例会市議会で、私森田の個人質問に新市建設計画推進担当局長は、「外部からの問い合わせの状況につきましては、現在までのところ私立の学校法人や医療法人などから施設の概要等についての資料提供等の調査申し入れがあったところでございます。当該跡地活用につきましては、旧建部町時代から地域振興として地域の特性を生かした地域づくりに資する施設誘致に向けて取り組んできました経緯を踏まえまして、新市基本計画に盛り込まれているものでございます。問い合わせのありました法人へのヒアリングも参考にいたし、また特例区協議会の意見も伺いながら、県の方針にも合致した方向性の中で、最も有効な活用ができるように進めてまいりたいと考えております。」との答弁をいただき、現在ヒアリングも行われているとお聞きしており、鋭意御努力をさせていただいているものと認識をしており、早目に地元説明等が実現できるようスピード感を持った対応をお願いいたします。

さて、サンタケベ、温泉会館の整備についてお尋ねいたします。

今議会経済委員会協議会に行政サービス棚卸し庁内事業仕分け、制度的見直し分結果(案)が提出され、県が岡山市に管理委託運営を行っていた建部国際交流ヴィラ事業を廃止し、建物を撤去することになった。なお、ヴィラ跡地も含めた温泉会館及びサンタケベの再整備について、八幡温泉郷利活用計画に基づき事業化を検討し、新市基本計画を推進

すると示されています。建部国際交流ヴィラの解体工事は、けさ私もこちらに来る前に寄ってきましたが、もう建物は撤去されておりまして、更地になっておりました。だから、もうほぼ国際交流ヴィラの解体工事は済んでおります。今後、新市基本計画どおりの事業推進がされることを地元の方々も信じて確信をしているところです。

そこでお尋ねいたします。

(1) サンタケベ、温泉会館の整備に対する予算措置がされていないが、今後の方針をお示してください。

(2) 今までいろいろな角度から施設整備に関する検討がされてきましたが、本格的な計画が示されない理由をお示してください。

(3) 平成 22 年度人員体制（素案）によると、経済局観光課が観光コンベンション推進課になると示されています。今議会でも多くの議員の方々がコンベンション誘致に力を入れるべきだとの指摘をされ、当局も努力をすとの答弁をされていますが、観光コンベンション推進課の人員体制は増員をされておられません。このことがサンタケベ、温泉会館の事業の進捗に支障を与えることはないのでしょうか、御所見をお示してください。

最後の項、県のふるさとの川リフレッシュ事業に関連して質問をいたします。

現在、市内を流れる県管理の河川は、国管理の河川に比べて堤防の整備はおくれています。また、土砂堆積や樹木により流水阻害が著しいところも多くあります。こうした状況をこれ以上放置できないとして、岡山県では平成 22 年度予算案にふるさとの川リフレッシュ事業として 3 億円の予算計上をされております。この事業について県に問い合わせをしますと、流下能力の低下など、洪水被害のリスクの軽減を図ることを目的にしているとのこと。堤防整備を促進していただきたいと思いますが、この事業ではそこまではできないものの、河川断面に流水阻害するものがあれば、地域や地元市町村からの要望を受けて行われることから、本市としても市民の生命、財産を守る観点から、ぜひ危険箇所の要望をしていただきたいと思えます。ただし、この事業を行うに当たって、樹木を伐採した場合、伐木を地元市町村で処分すること、また堆積した土砂の除去をする場合は、処分地の確保を地元市町村が行うことを求められているようです。

以上を踏まえて質問をさせていただきます。

(1) 河川断面に流水阻害するものがある箇所の阻害要因を改善することを、本市としても市民の生命、財産を守る観点から要望していく考えはありますでしょうか。

(2) 樹木を伐採した場合の伐木を、本市でキノコ栽培の原木用に市民に配布したり、破碎して処分したりすること、また堆積した土砂を除去した場合の土砂を処分する場所の確保を本市がすること、このいずれも岡山市が引き受けることは可能でしょうか。

以上で質問を終わります。

御清聴ありがとうございました。（拍手）

◎高谷茂男市長 それでは、森田議員の河川改修についての御質問にお答えをいたしま

す。

岡山は晴れの国と呼ばれ、市民の方々の多くも災害の少ない地域と認識されているようです。しかしながら、岡山県内では昨年美作市で大規模な水害が発生したところであり、岡山市においても最近では平成2年、平成10年、平成16年と大きな水害が発生しており、浸水対策が重要な課題となっております。

こうした中で、本市では市民の安全で安心な生活を守るために、都市ビジョンに基づいて安全な都市基盤プロジェクトを推進しており、その一環として河川改修などの浸水対策にも積極的に取り組むこととしております。このため、市として、また各種期成会等を通じて、国、県に対して旭川、吉井川などの国管理河川や、笹ヶ瀬川、砂川などの県管理河川の重点的な整備促進を要望しているところであり、今後も引き続き強く要望していくとともに、国、県と協力しながら、市民の皆様が安心して暮らせるまちづくりをしっかりと推進してまいりたいと考えております。

その他につきましては、各担当からお答えいたします。

◎進龍太郎企画局長　　o n i ビジョンの受信料金についての項で、受信料の統一について交渉状況と現在の状況はとの御質問にお答えいたします。

o n i ビジョンの利用料金につきましては、現在の建部地区、瀬戸地区の利用料金は、合併前の旧町とケーブルテレビ事業者との協議により設定されたものと認識しております。サービス内容に応じた料金の設定は、本来ケーブルテレビ事業者の経営判断によるものと認識しておりますが、地上デジタル放送への移行支援や地域間の格差是正の観点から、統一料金のあり方について要請を行ってまいったところでもあります。現在、ケーブルテレビ事業者におきまして、高齢者、生活保護世帯などに配慮した検討が行われていると聞いておりますが、国がケーブルテレビ事業者に対し、地上デジタル放送移行期における視聴者の利用しやすい料金設定を要請していることも踏まえまして、合理的な措置が行われるよう引き続き要請してまいることとしております。

以上でございます。

◎鈴木弘治保健福祉局長　　安全・安心に暮らせる長寿社会の実現に向けての項、民生委員、児童委員の配置人数について2点の御質問でございます。一括御答弁申し上げます。

国の配置基準では、民生委員、児童委員1人当たりの担当世帯数は、政令市の場合220世帯から440世帯、中核市の場合170世帯から360世帯であり、定数減となります。しかしながら、市全体の補助金及び定数については、市民サービスの低下にならないよう現状を維持したいと考えております。このため、定数減となる地区協議会の定数においても、単に国の世帯割による配置基準だけを一律に当てはめるのではなく、地区の面積や人口密度などの地域特性にも配慮したいと考えております。

次に、愛育・栄養改善委員の活動について、建部地域の高齢者に対する福祉事業につい

での所見、愛育・栄養等の各種団体が地域コミュニティの維持に大きな役割を果たしていると思うが、そのことに対しての所見をとのお尋ねでございます。一括御答弁申し上げます。

急速に進む少子・高齢化社会にあって、地域住民や団体と連携を深めながら、市民協働による安全・安心の地域社会の構築を目指してまいりたいと考えております。建部地域においては、各地区の愛育委員、栄養委員等の地域団体が中心となり、健康教室や料理実習、寝たきり予防事業等を各地区で実施していただいております。これらの団体の活動は、地域の人々のつながりを深め、コミュニティの維持、向上に大きな役割を果たしているものと考えております。

次に、愛育・栄養改善委員の活動について、委託料、補助金の減額が続いているが合併時の約束か、次に建部地域をモデル地域とし事業の継続はできないか、また補助金、委託料を減額せず活動するほうが将来の財政負担が減るのでは、所見をとのお尋ねでございます。一括御答弁申し上げます。

補助金、委託料については、合併協議の中で合併後に調整することとされておりました。増大する医療費や介護給付費を抑制するためにも、予防活動はますます重要になっております。本市でも健康市民おかやま 21 において、温泉建部 21 を包括した形で、地域の課題に応じた健康づくりの活動が展開されるよう、各種団体・組織と連携しながら取り組みを行っております。今後、各地域の特色のある活動の継続支援や情報共有に努め、より効果的な健康づくりや予防活動が展開できるよう努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎難波巧経済局長 新市基本計画の進捗状況についての項で、サンタケベ、温泉会館について今後の方針は、本格的な計画が示されない理由は、また平成 22 年度の人員体制で事業進捗に支障はないのかというお尋ねでございます。一括して答弁をさせていただきます。

昨年 4 月に策定いたしました八幡温泉郷利活用計画では、付加価値の高い温泉——観光を核とした観光・市民レクリエーション施設として整備することをテーマとして、施設整備・運営方法などについて一定の取りまとめを行ったところでございます。

この利活用計画に基づき、まず民間活力の導入による広く自由な発想と合理的な施設整備・運営を図るため、昨年 10 月にプロポーザル型事業による提案の可能性を探るべく、広く民間からの意見募集を行いました。応募はありませんでした。あわせて、温泉業関連団体や保健福祉施設などの民間事業者からもヒアリング調査を行ったところ、事業性・採算性が乏しい、施設整備に係る費用の回収が困難などの理由で、参加する事業者が見込めない状況が判明いたしました。今後は市として、新たな視点から民間事業者の事業参画の可能性を探りながら、両施設の観光・市民レクリエーション施設としてのあり方、機能や魅力の向上、より効率的な運営について、総合的に検討を重ねるとともに、関係部署との連携や地元との協議を行い、与えられた人員体制の中で整備事業に取り組んでまいりたい

と考えております。

以上でございます。

◎白神利行都市整備局長 県のふるさとの川リフレッシュ事業に関連しての市長答弁以外で、県への要望、また樹木の処分等についてのお尋ねに一括して御答弁申し上げます。

ふるさとの川リフレッシュ事業は、県管理河川を対象に、比較的規模の大きな、堆積した土砂や繁茂した樹木による流水阻害が著しい箇所、しゅんせつや樹木伐採を行うことにより、河川の流下能力の向上を図ることを目的とした新規の県単独事業であり、平成 22 年度の県予算案では 3 億円が計上され、平成 26 年度までの 5 年間にわたり継続する事業と聞いております。この事業の実施に当たっては、しゅんせつした土砂の処分場の確保や伐採した樹木の処分などについて、市町村が共同で対応するものと聞いております。従前より市が要望していた旭川や上道付近の砂川などでは、今年度県がモデル的にしゅんせつや伐採などを実施され、市はしゅんせつ土砂の処分場所の確保など協力を行ったところです。今後も市内において、この新規事業に取り組んでいただくよう要望を行うとともに、沿川住民の皆様の協力を得ながら、市としてもこの事業に積極的に協力し、市民の安全・安心の確保のため、河川のリフレッシュに取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

〔4 番 **森田卓司** 議員登壇〕

◆ 4 番 (**森田卓司** 議員) それでは、再質問をさせていただきます。

まず、o n i ビジョンの受信料の統一についてなんですけれども、私たち旧建部町のときにこれは始めたわけなんですけれど、旧建部町は国が 4 分の 1、それから……、ごめんなさい、ちょっと国の補助金が幾らかというのは覚えておりませんが、全額補助金ないし独自の財源でやってまいりました。それから、今回行われる足守・高松地域は 4 分の 1 が国、4 分の 1 が市、半分が o n i ビジョンさんの財源ということで、どちらも税金の投入がされているわけでございます。それなのに、料金が違うというのはおかしいんじゃないかと私は常々思っております。o n i ビジョンさんも特例区協議会等へ、チャンネル数が違うからだとかいろんな説明をなされているわけですが、私は根本的に、番組数が多いのは、それは o n i ビジョンさんがずっと考えていただければいいと思うんですけど、本当にベーシックな昔のテレビですね、新聞で見ますとテレビ欄の衛星 1・2、ハイビジョンを除いたチャンネルだけしか見ないんだという人も大勢いるんです。本当にそんなにテレビなんか見ておれんという人もおられますし、そういう人のためにも、ぜひとも、まあ瀬戸の方も同じじゃないかと思うんですけど、o n i ビジョンさんが独自に営業活動していかれる旧岡山市内のようなところなら、それは私ももう、民間の会社なのでそこまでは言えないんですけど、市、国が公費を負担してる事業なわけですから、ぜひともそこをよろしく、もう一度答弁をお願いいたします。

それから、健康長寿についてです。

政令指定都市になった岡山中、区制もしかれ、区ごとの特徴も出さなくてはならないとの、議員の皆様方そして市民の皆様方の意見を数多くお聞きします。でも、特に北区のような広い地域では、中心市街地とそれから御津、建部、足守、まあよそのことを余り言ったら怒られるかもしれませんが、そういう過疎地と中心市街地等とを一緒にしたような施策じゃ、私はいけんのじゃないかと思うような気もするんですが、これは質問項目に入れてませんので答弁をいただくわけにはいかんと思うんですが、やはり何か中山間地域と中心市街地とは違うことを考えていただかなくちゃいけないと思っております。どちらも中途半端なことになってしまうんじゃないかと思っております。

そこで、健康長寿について再質問をさせていただきますが、建部の愛育委員の総会とかそれから栄養改善委員会の総会とかに当局のほうから来られまして、本当にすばらしい事業です、建部は本当にすばらしいことをやられてますって言われるんですが、そりゃまあ、だれでもその席に行くと、余りええことやってねえなあとは、僕らも呼ばれていって言えませんから、しょうがないとは思いますが、外交辞令もあるんだとは思いますが、それなのに活動費がどんどんどんどん減っていくのがどうも納得できないんですが、保健福祉局長、もう一度御答弁をお願いします。

それから、民生・児童委員の件に関しましても、これは御配慮いただきますということで、よろしくをお願いします。

それから、新市基本計画のサンタケベと温泉会館です。

先ほど経済局長の答弁では、これ11月26日の経済委員会の資料なんですけど、ステップ2に今入ったと。その中で、ステップ2では行政による施設整備方法を検討すると書いてありますが、経済局長のほうからは民間活力を導入してやってほしいというような答弁があったと思います。地元の方はそういうことを多分望んでおりません、というか望んでおりません。この温泉会館とサンタケベの事業に関しましては、旧建部町議会でも本当に岡山市はやってくれるかというような議論がなされました。それで、法定協議会の中でやってくれるその項目に、新市基本計画の中に入れてやってくれると言っていたときには、今は市民となっていますが、旧町民それから我々町会議員も本当に喜んだものです。そこで、法定協議会の中で、高谷市長はもうこの計画を立てて、事業が完了することを本当に望んでおられるものと私は確信をしております。法定協議会に臨まれた市長として確信をしておるわけですが、副市長どうですか、この事業に対してどのような方向性を考えておられるか、ちょっと副市長のほうから御答弁をお願いしたいと思います。

それから、また先ほどの山陽新聞の「検証合併3年一編入2地域のいま」という欄で、この中にハード事業が八幡温泉郷整備と福渡高校跡地の2本柱を含め15件、総事業費は最大62億3,500万円の見込みと書かれておるんですが、この温泉会館、サンタケベに予定しているその予算とかというのはどれぐらいだったのか質問をいたします。

それと、総務局長にお伺いいたしますが、観光コンベンション推進課となって人員体制

がふえておりません。素案ですから、また変わるかも知れませんが、12名が12名。その中で、コンベンションには今回でも多くの議員の皆様方が力を入れるべきだということで質問をされて、当局の方も全面的に努力してやっていくというふうなことを答弁されております。これは私も賛成というか本当に同感なんです、そのことによってこの事業に対するおくれとかそういうものは影響はないとお考えでしょうか。総務局長、お答えをいただければと思います。

以上で質問を終わります。

ありがとうございます。(拍手)

◎佐古親一副市長 サンタケベ、温泉会館についての方向性というお尋ねでございます。

新市基本計画の一つとしまして掲載されております観光施設環境整備事業を進めていくために、昨年4月に八幡温泉郷活用計画というものを策定いたしまして、その後この利用計画に基づき民間による施設整備・運営を図るために準備を進めまして、昨年10月にプロポーザルを行ったわけでありましたが、残念ながら応募はございませんでした。現在、これらの状況を踏まえまして、民間事業者の参画の可能性もなお探りながら、多くの市民や観光客が本当に利用してもらえることができるようなものとなるように、その整備・運営のあり方を内部で検討しているところでございます。

以上でございます。

◎繁定昭男総務局長 サンタケベ事業の人員体制についてのお尋ねでございます。

人員配置については、各局・区・室からヒアリングを行っているところでございますが、特にサンタケベ事業の体制についてのお尋ねですが、やはり個別の事業につきましては、その事業の方針あるいは熟度、進捗状況等によって、各関係部局と協議等をさせていただいて、適正な配置をしてもらいたいというふうに考えております。

以上でございます。

◎進龍太郎企画局長 o n i ビジョンの料金につきまして再質問をいただきました。

議員御指摘のように、現在御津・足守・高松地域につきましては、9チャンネルで1,050円、これに対して建部・瀬戸地域につきましては21チャンネルで1,575円を提案していると聞いております。ただ、先ほども御答弁申し上げましたが、やはり地上デジタル放送への移行などというこのタイミングで、そういうことも勘案しまして、市としても要請を行ってまいりました。それを受けまして、o n i ビジョンとしまして、建部・瀬戸地区においても高齢者世帯や生活保護世帯などへの配慮も勘案しまして、同一料金に向けて検討を行っているというふうに聞いております。この動向を注視してまいりたいと思っております。

以上でございます。

◎鈴木弘治保健福祉局長　　栄養改善委員，愛育委員がすばらしい活動をしていると言いながら，活動費が減額されていくのはどういうことかといった再質問でございます。

御指摘のとおり，委託料，補助金につきましては，段階的に減額をさせていただいていくところでございます。しかしながら，地域に根差した予防活動は重要であると認識しているところであり，今後地域の実情等も踏まえながら，連携や支援のあり方について引き続き検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎難波巧経済局長　　八幡温泉郷の事業について，予算はどれぐらいかというお尋ねでございます。

八幡温泉郷の整備につきましては，新市基本計画の中で，観光コンベンションの推進，それから主要事業として観光施設環境整備事業と，提案事業名としては建部町温泉会館リニューアル事業と建部町温泉宿泊研修センターサンタケベ整備事業というふうに記載してございますが，事業費そのものは書いてございません。また，平成22年度当初予算については，事業費は計上していないところでございます。

以上でございます。

〔4番森田卓司議員登壇〕

◆4番（森田卓司議員）　　御答弁ありがとうございました。

1点だけ，八幡温泉郷利活用計画の整備について，佐古副市長，答弁ありがとうございました。その中で，この経済委員会資料にはステップ2となったと，プロポーザル型事業の実施は応募がゼロでできなかったと，その報告は建部町合併特例区協議会でも報告をされております。その中で，ステップ2のこの行政による施設整備方針を検討，これしかないんじゃないんですか，こう書いてるということは。まだ民間事業者を募集するということなんでしょうか。どうも，この経済委員会資料に括弧して，なおまだ民間事業者の応募があればそれを求めるとか，継続的に引き続くというふうなことが書いてあれば別なんです。この資料によると，もうプロポーザル型事業の実施は応募ゼロでバツ，ステップ2として行政による施設整備方法を検討しております。ぜひとも，行政による施設整備をまず第一に提案をして，それから地元の説明をして，地元の方の了承を得て事業を進めたいと思っておりますが，いかがでしょうか。お答えをお願いいたします。

よろしく申し上げます。

御清聴ありがとうございました。（拍手）

◎佐古親一副市長　もちろん、行政による整備・運営というものを基本に考えておりますが、よりよい整備が行われるのであれば、官と民の役割は問われないものと考えてございます。

以上でございます。